



## ● 今月号の元気な話題 ●

- 林振
 令和元年度宮城県山林苗木品評会で最優秀賞を受賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  
 【林業振興部】
- 水漁
 乾ノリの初入札会が開かれました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2  
 【水産漁港部】
- 農振
 GAP に取り組む経営体の現場力向上を支援しています・・・・・・・・・・・・・・ 2  
 【農業振興部】
- 水漁
 「塩釜・七ヶ浜水産加工品販売会“うまいもん市”」を開催しました・・・・ 3  
 【水産漁港部】
- 地振
畜振
 鳥インフルエンザ発生時対応で  
 仙台市との連携強化に取り組んでいます・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3  
 【地方振興部・畜産振興部】
- 農整
 東日本大震災からの「復旧・復興」の御礼活動  
 ～派遣職員へ感謝米の贈呈が行われました～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4  
 【農業農村整備部】

## 令和元年度宮城県山林苗木品評会で最優秀賞を受賞

▶林業振興部

県内で林業用苗木を生産している生産者数は、個人、企業を合わせ 17 者あり、当管内には 3 者の生産者がいます。

当品評会は、全国山林種苗協同組合連合会が、育苗技術と経営の改善意欲の高揚を図り、優良種苗の生産及び苗木経営の改善向上に資することを目的として毎年開催しているもので、今回は当管内の亘理町で林業用苗木を生産している、佐藤光紀氏が最優秀賞を受賞しました。



▲生産者の佐藤光紀氏と苗木

佐藤光紀氏は、苗木生産を 35 年間にわたり行っており、林野庁長官賞や優秀賞なども多数受賞されています。経営は家族で維持できる小規模苗木経営とし、播種・植え付け・根切りなど苗木生産は手作業を基本とした苗木管理により安定した優良苗木の生産を行っており、コンテナ苗の生産にも取り組むなど年間 5 万本の出荷を可能にしています。

なお、佐藤光紀氏においては、今回の受賞により令和元年度全国山林苗木品評会へ宮城県代表として推薦されています。

## 乾ノリの初入札会が開かれました

▶水産漁港部

今年度の宮城県産乾ノリの初入札会が 11 月 27 日（水）、宮城県漁協塩釜総合支所で開かれました。今年度は秋口（育苗期）の高水温や台風等の影響でノリの生育が遅れたため、昨年度よりも 6 日遅い初入札会となりました。全国で最も早い乾ノリの入札会ということもあり、会場には全国から多数の買受人や関係者が集まり、ノリの品質を確かめていました。

上場枚数は昨年よりも 2 割ほど少ない 1,148 万枚に留まりましたが、品質が良かったことから、平均単価は昨年よりも 3 割ほど高い 1 枚当たり 16.4 円で取引されました。また、最高値をつけた七ヶ浜産のノリは、1 枚当たり 88.8 円と過去最高値（宮城県漁協調べ）を更新しました。入札会は来年の 5 月頃まで開催され、今期は昨年よりも 3 割ほど多い 4 億万枚の生産を見込んでいます。

親潮（寒流）が流れ込む栄養豊富な漁場で育てられた宮城のノリは「みちのく寒流のり」として全国から高い評価を受けています。是非ご賞味ください。



▲のり入札会場の様子①



▲のり入札会場の様子②

## GAP に取り組む経営体の現場力向上を支援しています

▶農業振興部

(株)未来彩園は、大衡村で大玉・中玉トマトの養液栽培を行なっており、平成 30 年に ASIAGAP 認証を取得しました。GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）とは、農業における食品安全や環境への配慮、労働安全、信頼される農場運営等のリスク管理と改善活動を行い、持続的な農業経営につながる取り組みのことです。GAP に取り組むことで、生産性や効率性、経営意識等の向上につながる効果が期待されますが、そのためには、作業に従事する人が、農場の方針や問題点を共有し、取り組みに積極的に参画することが重要です。

(株)未来彩園は、GAP 認証取得を契機として、パート従業員も含めた全従業員が自発的に職場の問題に気づき、改善しようとする組織風土づくりのための活動を開始しました。



▲ワークショップの様子

普及センターでは、(株)未来彩園の全従業員の意識改革に向けたそれらの取り組みについて支援しています。

今年度は、全従業員に対して、GAP への理解を深めるための研修会と、問題を共有し、改善する活動の皮切りとしてのワークショップを開催しました。ワークショップでは、日ごろ行っている作業内容を再確認し、問題点やその原因と解決策、今後の目標等について話し合いました。問題に気づき、それらを改善していくには従業員で話し合う場を持つことが大事です。普及センターでは、従業員間の話し合いが定着し、自由に意見が交わされ、改善提案ができる経営体を目指し、今後も引き続き支援していきます。

## 「塩釜・七ヶ浜水産加工品販売会"うまいもん市"」を開催しました

▶水産漁港部

「食材王国みやぎ」推進の一環として、12月9日（月）から13日（金）の5日間、宮城県庁舎1階玄関ホールにおいて「塩釜・七ヶ浜水産加工品販売会"うまいもん市"」を開催しました。本販売会では、重油流出事故の被害を乗り越え、七ヶ浜の豊かな海で生産された新海苔や、塩釜で生産された美味しい塩辛、漬魚、干物、県内1位の生産量を誇る練り製品など、出展業者10者から40品目が出品され、バラエティ豊かな商品が並びました。

県の職員だけでなく、多くの一般来庁者にもお立ち寄りいただき、早速リピーターとなる方もいらっしゃいました。また、生産者との貴重な交流の場になったと共に、塩釜・七ヶ浜地域をあまり訪れたことがない方に対しても、地域の特色ある食材や地元業者の魅力を広める機会になりました。



▲賑わいを見せる販売会場



▲パンフレットによるPRコーナー

## 鳥インフルエンザ発生時対応で仙台市との連携強化に取り組んでいます

▶地方振興部・畜産振興部

当事務所は今回初めて仙台市保健所との共催により、10月29日（火）に仙台市内養鶏場での鳥インフルエンザ発生を想定した防疫演習を実施し、殺処分従事者の健康調査や防疫服・マスクなどの着脱支援を中心に訓練を行いました。当日は、仙台圏域の県地方機関及び仙台市の関係部署から147人（見学者を含む）が参加しました。

仙台市内で鳥インフルエンザが発生した場合、殺処分従事者に対する従事前、従事後の健康調査は仙台市保健所が担当することになっており、万一の発生時に県と仙台市が連携し、健康調査を含む防疫措置全般をスムーズに運営できるよう、業務内容や作業手順について確認しました。

関係者は防疫演習に向けた事前準備と当日の演習の運営を通じて、県と仙台市の連携体制をより深めることができました。今後は、演習で把握した細かな確認事項の調整を進め、仙台市内での鳥インフルエンザ発生時の対応力を強化していきます。



▲殺処分従事者への健康調査の様子



▲防疫服の着衣サポートの様子

# 東日本大震災からの「復旧・復興」の御礼活動 ～派遣職員へ感謝米の贈呈が行われました～

▶農業農村整備部

東日本大震災により甚大な被害を受けた仙台地方振興事務所管内の5つの土地改良区では、生産基盤の早期再生と農業農村の復興を目的として「仙台平野沿岸地区被災土地改良区復旧・復興推進協力会（※）」を平成27年に設立しました。

当協力会では、農業農村整備事業に関係する各公所に対し、これまでの協力と支援に感謝する御礼の活動を毎年実施しており、今年度も11月8日（金）に実施しました。

当事務所においても、他県から派遣されている職員に対し土地改良区理事長から感謝の証として感謝米の贈呈が行われました。受け取った職員からは「美味しいお米をいただき感謝します。これからも宮城の復興のために全力を尽くしたい。」という言葉がありました。

当事務所はこれからも、派遣職員の方々と協力し、復興事業を進めていきます。

※会員：亘理土地改良区、名取土地改良区、仙台東土地改良区、宮城郡七ヶ浜町七ヶ浜土地改良区、鶴田川沿岸土地改良区



派遣職員へ感謝米の贈呈



派遣職員との記念撮影

## トピックス

### 風と浜街道スマホスタンプラリー開催中

■仙台市とみやぎ県南浜街道地域（名取市・岩沼市・亘理町・山元町）で、スマートフォンを利用したデジタルスタンプラリーを開催中

■期間は令和2年1月15日（水）まで

■スタンプを集めるほかにも、Instagram 投稿キャンペーンや観光ナビサイトのアンケート回答でもプレゼント獲得のチャンス



観光ナビサイト



スタンプラリーサイト

### 毎月第3水曜日はみやぎ水産の日

■「水」曜日+第「さん」=水産

■12月のおすすめは「サバ」

■詳細は水産業振興課のホームページから



水産業振興課ホームページ

問合せ先：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部（担当：首藤）

TEL：022-275-9140 FAX：022-275-0296 E-Mail：sdsinbk2@pref.miyagi.lg.jp

※次号は令和2年2月下旬発行予定です。